学力向上フロンティアスクール用中間報告書

都道府県	山梨県

Ⅰ．学校の概要

学校名	身延町立身延中学校						
学　年	１学年	２学年	３学年	特殊	計	教員数	
学級数	2	2	2	0	6		
生徒数	７０	６６	６０	0	１９６	１３	

Ⅱ．実践研究の概要

１．主題

自ら学び意欲的に学習する生徒の育成
～生徒の確かな学力向上をめざして～

２．研究の内容と方法

(1)　実施学年・教科

全学年　全教科
（学校全般の教育活動の中で生徒の学力向上にかかわる改善をめざすため）

(2)年次計画

平成14年度

○主題　　自ら学び意欲的に学習する生徒の育成
～生徒の学力向上のための様々な方途の研究～

○仮説

１．地域・学校・生徒の実態にあった教育課程を編成し，個に応じた指導のための教材の開発や，個に応じた指導方法，指導体制の工夫，選択学習を多様化することによって，生徒は基礎的・基本的学習内容をより深く理解し，確かな学力を身に付けることができる。

２．地域・学校・生徒の実態を考慮しながら本校の目標に準拠した評価の規準を作成することによって，生徒は学習活動の目標がより明確になり，学習意欲を高めることができる。

○研究内容・方法

１．９８０時間の年間総授業時数の確保，選択教科の工夫，総合的な学習の時間の確保，ＴＴ指導の時間の確保を行う。

２．確かな学力観の構築，個に応じた指導のための発展的・補充的な教材の工夫，個に応じた指導方法・指導体制の工夫，地域の人材の活用やＴＴ・少人数学習などの学習形態の工夫を行う。

３．年間指導計画とともに，年間評価計画を作成し，指導と評価の一体化を図る。

平成15年度

○主題　　自ら学び意欲的に学習する生徒の育成
～生徒の確かな学力向上をめざして～

○仮説

１．地域・学校・生徒の実態にあった教育課程に基づき，個に応じた指導のための教材の開発や，個に応じた指導方法や指導体制の工夫，選択教科の学習を多様化することによって，生徒は基礎的・基本的学習内容をより深く理解し，確かな学力を身につけることができる。

２．地域・学校・生徒の実態にあった絶対評価の規準を生徒に提示し，よりわかりやすい評価活動をすることによって，生徒は学習活動の目標がより明確になり，自ら適切な自己評価をし学習意欲を高めることができる。

３．啓発的体験学習と道徳教育を，地域・学校・生徒の実態にあった計画で実践することによって，生徒は「生き方学習」を深めていくことができる。

○研究内容・方法

１．生徒一人一人に応じた学習活動がより可能になる，地域・学校・生徒の実態に即した教育課程を実践する。
２．基礎的・基本的学習内容を定着させ，生徒一人一人の確かな学力を身に付けさせるための学習活動を創造する。ＴＴ研究部会，個に応じた学習研究部会が中心となって研究を推進する。
３．絶対評価の規準を検証し，指導との一体化を明確にしていく。『学力向上』をはかる手だても評価・評定研究部会を中心に研究を推進する。

平成16年度

○主題　　自ら学び意欲的に学習する生徒の育成
～生徒の確かな学力向上をめざして～

○仮説
１．地域・学校・生徒の実態にあった教育課程に基づき，個に応じた指導のための教材の活用や，個に応じた指導方法や指導体制の導入，選択教科の学習を多様化することによって，生徒は基礎的・基本的学習内容をより深く理解し，確かな学力を身につけることができる。
２．地域・学校・生徒の実態にあった絶対評価の規準や基準を生徒に提示するなど，よりわかりやすい評価活動をすることによって，生徒は学習活動の目標がより明確になり，自ら適切な自己評価をし学習意欲を高め，学力を向上させることができる。

○研究内容・方法
　個に応じた指導のための発展的・補充的な教材，個に応じた指導方法や指導形態，地域の人材の活用やＴＴ・少人数学習などの学習形態のモデル，規準や基準の提示が生徒の確かな学力を身に付けるために有効であったかどうかの検証を行う。

○検証の方法
①生徒の実態把握調査（学習習慣調査，評価計画に基づいた年間５回の定期学力検査等）　②授業研究　③公開研究発表会
④峡南地区学力向上推進協議会　⑤山梨県学力向上推進協議会
⑥ＳＨＤ教育会議

(3)研究体制

校内研究推進委員会（校長，教頭，教務主任，研究主任，研究副主任）
└ 校内研究会（全体）── 研究部
　├ 教科指導研究 ┬ ＴＴ研究部会
　│　　　　　　 ├ 評価・評定研究部会
　│　　　　　　 └ 個に応じた学習研究部会
　├ 総合学習研究
　├ 進路学習研究
　├ 道徳指導研究
　└ 特別活動研究 ┬ 生徒指導研究
　　　　　　　　 ├ 保健指導研究
　　　　　　　　 ├ 給食指導研究
　　　　　　　　 ├ 読書指導研究
　　　　　　　　 ├ 情報教育研究
　　　　　　　　 └ 生命の教育研究

＊ＴＴ研究部会，評価・評定研究部会，個に応じた研究部会のいずれかに全員が所属し，部会研究を進めていく。部会ごとに部長を中心に研究を進め，全体研究会の中で提案・資料提示などを行っていく。

Ⅲ．平成１５年度の成果及び課題

１．研究の成果

１．教育課程に関すること

・年間授業時数９８０時間以上の教育課程を編成した。
・総合学習の時間を各学年予定どおり確保した。
・選択教科の時間も各学年予定どおり確保した。
・選択教科は１学年で，国語，社会，数学，理科，英語の５教科，５コースを，２学年で，選択Ａとして，国語，数学１・２，英語１・２の３教科，５コースと，選択Ｂとして，音楽，美術，保健体育，技術の４教科４コースを開設した。３学年では，選択Ａとして，社会，理科，の２教科２コースと，選択Ｂとして，数学１・２，英語１・２の２教科４コースと選択Ｃとして，美術，保健体育，技術，音楽の４教科４コースと，選択Ｄとして，国語（書道），美術（墨絵），保健体育Ⅰ（弓道）・Ⅱ（バスケットボール）・Ⅲ（空手），家庭（ペーパークラフト）音楽（箏曲）の５教科７コースを開設した。この講座には地域の方々を講師に招聘した。
・全校の数学と，英語はすべて，理科，社会，国語は一部でＴＴ指導を実施した。

２．個に応じた指導に関すること

・個に応じた指導のための発展的・補充的な教材の作成，個に応じた指導形態の類型化，地域の人材の活用やＴＴ指導，生徒選択によるコース別少人数学習などの学習方法の実践研究が進められた。
・各教科ごとに個人差の捉えを明確にし，単元構想を構築する中で，個に応じた指導の具体策（教材，形態，学習過程の導入，支援・指導技術）や評価を交流しあいながら研究を深めることができた。

３．評価に関すること

・年間指導・評価計画を作成し生徒に提示することで，指導と評価の一体化に取り組んだ。
・提示した評価規準で学期末の評価を行い，通信表にも詳しく掲載した。

４．その他

・４教科６回の研究授業が実施できた。

２．今後の課題

１．教科における個に応じた指導・ＴＴ指導の有効性や成果をどのように検証していくか。
２．開設選択教科が年度の教職員構成に大きく影響されてしまう問題や選択教科・ＴＴ教科の拡大に伴う持ち時間の増加などををどのように克服していくか。
３．評価価規準を作成し生徒に提示できたが，評価の基準は作成ができなかった。
４．評価を指導に生かす点が各教科任せになってしまい，全体で研究できなかった。
５　本校なりに客観的なデータをどのような形で示していくか。
６．生徒の意識調査を行ったが，研究に生かせなかった。
７．指導主事を研究授業の度に招聘したが，日程が合わないことが多かった。

Ⅳ．学力把握のための学校の取組について

定期学力検査の実施（年５回）
生徒の意識調査（年２回）及び，標準学力検査を実施予定（年１回）

Ⅴ．フロンティアスクールとしての成果の普及について

ホームページ開設（公開）　http://.minobu-chu.ed.jp/2002/index.htm
峡南地区学力向上推進協議会での授業提供

継続校　１４年度からの継続校
学校規模　４～６学級
指導体制　ＴＴによる指導　その他
研究教科　国語　社会　数学　理科　外国語　技術　保健体育
指導方法の工夫改善に関わる加配の有無　有